

生々流転集（I）

下萌や隅田川へ五里の道しるべ

小泉 定弘

春光の水迂りゆく水草かな

川崎 澄子

水分のひびき浄らか落椿

池田寿美子

後から横から押され初詣

組橋 伶子

花びらのゆるびし風の寒牡丹

斉藤 錦

風やみて散るひとひらの寒桜

篠原 然

待つことの五分が長し鳥雲に

下坂 速穂

やり残す事のあれこれ去年今年

日暮 邦子

竹跳ねて居久根にどつと雪煙

本田 幸逸

ふきのたう洗ふ大笹波入れて

竹内 雪絵

清盛の海へ三粒の鬼の豆

田中 紘子

見返れば師のゐるごとし寒夕焼

安仁屋則子

紫宸殿瑠璃光放つ氷柱かな

飯嶋喜代子

神楽面取れば若しや山の神

伊藤 敦子

蹲踞の落つるともなき寒の水

小高 保代

俎板の上のみどりの露の臺

小山 繁長

落椿手にひんやりとやはらかく

小口 俊夫

草間より花芽の固き露の臺

小畑 光子

銭湯の煙うららか蔵の街

今井 俊

筆を焚くけむりうすうす実朝忌

祇園 快太

昨日今日見事に晴れて冴返る

水島 直光